

## ◆ 2020 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO 法人 鴻巣こうのとりを育む会

23A-03

代表者：代表理事 伊藤 鑄義

URL :

### 1. 活動が必要とされた状況

鴻巣市においては、2021年の秋頃からコウノトリの飼育が開始される予定となっている。ヒナが誕生した場合は、野生復帰を目的にした野外への放鳥となる。コウノトリは肉食の大型の水鳥であるため、その餌となる生き物が豊富に存在することが条件となる。

餌生物は、過去の調査結果から、河川や水路、水田、草地などに大部分が生息している。魚類については、水田での個体数が少ないことが確認された。現状は、水路と水田に落差があり、魚類が遡上できない。解決策としては、水路と水田の落差の解消を図ることである。魚類が水田を産卵場所に利用できることが、個体数の増加にも繋がる。このため、魚道の設置が必要となった。

### 2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

魚道は、設置勾配が魚類の遡上数に大きく影響する。また、管理の容易性や耐久性も考慮し、先進地での実績のある方の指導を仰ぎながら進めることになった。設置に当たっては、稲作に支障がないこと、また、魚道の設置が効率よく行える時期など、いくつかの条件があるので、先進地を見学し、水路、水田の現地調査から設置まで、その手順を決定した。

- ① 水路及び魚道設置水田の調査（6月）
- ② 小山市へ魚道の見学（6月）
- ③ 魚道設置水路・水田測量（6月）
- ④ 魚道設置（12月）



（魚道設置水路水田・測量）



（魚道設置）

### 3. 活動の成果

魚道は、コウノトリ飼育施設近隣の水田へ設置した。水路内や水田内での作業ができる時期に設置した。魚道遡上の魚類モニタリングは、田植え終了後を予定している。水路内の魚類は確認しているので、水田が産卵場所となることを確信している。

### 4. 今後に残された課題

魚道の管理は水田耕作者の協力なくしてはできない。モニタリングから生き物調査まで実施できる体制を構築し、魚類個体数の増加を図る。